

1 地域の困りごと（意見が多かった順に記載）

高齢者の移動手段がない

市内全域

- ・高齢世帯や独居が多く家族送迎は難しい。（日中仕事をしている家族についても困難）
- ・近所同士で乗り合いしていてもお互い高齢になり徐々に困難になる。
- ・免許返納後に車に代わる移動手段を見つけることが難しい。

家族の支援が困難である

佐屋地区 立田地区 八開地区

- ・本人以上に家族に支援が必要（精神疾患等）でサービスの導入をはじめとする在宅介護の環境を整えることが難しい。
- ・高齢者世帯、独居世帯で支援する家族がいないもしくは家族が遠方。
（上記世帯で認知症があればなお支援が困難である）
- ・低所得、8050、9060などの家庭問題に対する対応の介入が難しい。

些細な困りごとのための仕組みや担い手が不足している

市内全域

- ・生活支援サポーターは実際に活動できる人の確保が難しい。
- ・団体への登録をしない個別のサポーターも多く、無償で行っていただくことになる。
- ・市民に対して情報提供不足である。
- ・介護保険以外の市役所の手続き等について、支援するための制度や仕組みがないため、ケアマネジャーがやらざるを得ないことが多い。
- ・「テレビを買い替えたのでチャンネルの設定をして欲しい」等、些細な困りごとが日常にはある。

認知症になった人の行方不明が増えている

市内全域

- ・認知症になった人の行方不明が増えている。

医療の情報が得づらい

立田地区

- ・往診対応や送迎対応をしてもらえる医療機関の情報が無い。

旧家の作りの高低差

立田地区

- ・玄関が道路よりも高く作られており、道路からの玄関までが急な坂になっている。
- ・土間の上がり框が高い。

2 愛西市の高齢者における主な既存の移動手段とその現状

徒歩

身体機能の低下により手段として選べない。
病院や行きたい店が遠くて歩いていけない。

自転車・電動自転車

現状多く利用されている手段ではあるが、身体機能の低下により手段として選べなくなる。

車・オートバイ

身体機能や認知機能の低下により手段として選べなくなる。

電車

利便性が低い。(市内に駅は多いが自宅から遠い人がほとんどである。)
駅がバリアフリー化されていない。(エレベーター等)
行先の近くに駅がないため交通手段として選べない。

シニアカー

金銭的な理由で購入できない。
介護保険の利用対象者は限定されている。
雨天では利用できない。
事故の心配、加齢や認知機能の低下により利用中止するときの判断が難しい。

タクシー

タクシー事業者側の人員不足で予約が取りづらくなり、利便性が低下している。
(予約ができなくなったタクシー事業者もある)
料金の負担が大きい。

巡回バス

バス停が自宅から遠いもしくはバス停が無い地域がある。
地域により本数が不足している。
身体機能の低下により入り口のステップが上げられなくなると利用できない。
シルバーカーを利用者が自身でバスに積み込まねばならず、その際の他利用者とのトラブルの不安から利用が遠のく場合がある。

買い物支援バス

満65歳以上の独居及び高齢者世帯を対象として自宅近くの指定場所から店舗までを送迎する

対象者が限定的である。
シルバーカーは自身で乗せなくても良いが、乗り降りに介助が必要になると利用できない。
小店舗などが多い地域では利用が少ない。佐屋地区の一部や佐織地区の一部などに利用者が集中している。
便が少ない。現状月に1～2回の利用となっている。(運行は木曜以外の平日のみ)

運転ボランティア

養成講座を修了した住民が病院や店舗等への自動車による送迎を行う

実働しているボランティアの数が少ない。(現状ではボランティアはシニア層が中心である。ボランティアの自家用車を使うことも数が増えない原因か)

※総合事業（訪問型サービスD）

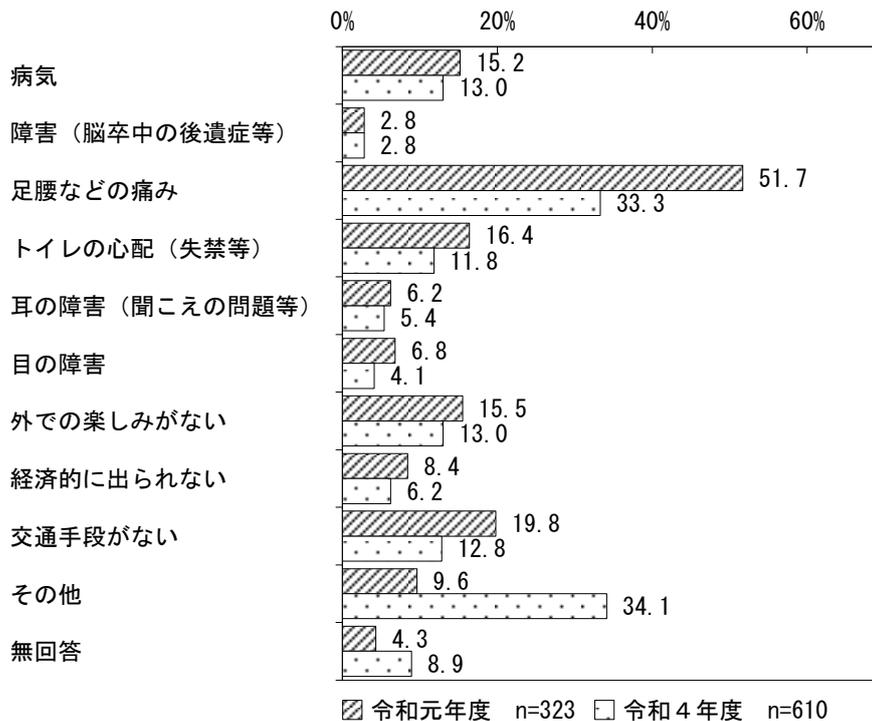
事業対象者・要支援1、2を対象として住民主体の団体が病院や店舗等への自動車による送迎前後の付き添い支援を行うサービスに送迎は含まないが、送迎も併せて行っている団体もある。

外出を控える理由

外出を控えている人にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が33.3%と最も高く、次いで「病気」及び「外での楽しみがない」が13.0%となっています。

「その他」として下の表に内容が記載されており、「新型コロナウイルスの影響」(165件)が「足腰などの痛み」に次いで高くなっています。

外出を控える理由（複数回答）



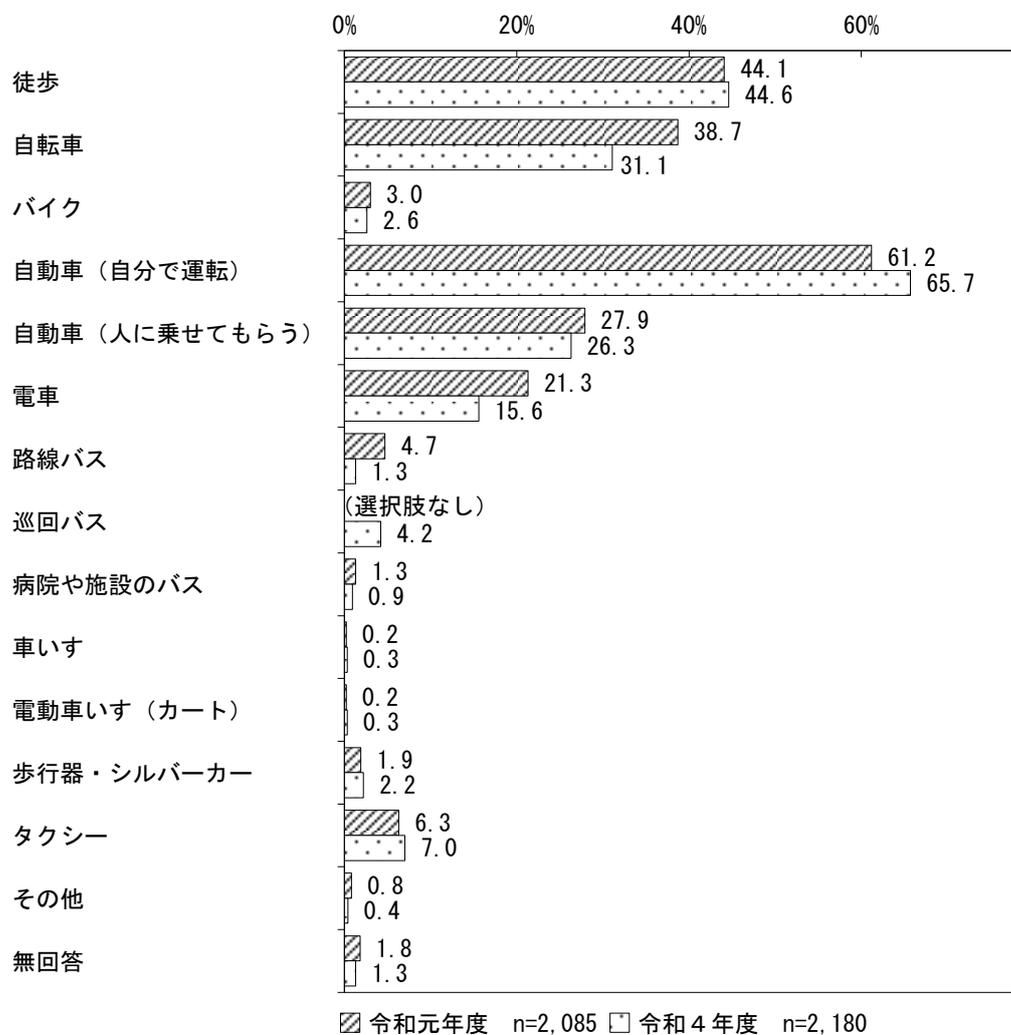
外出を控える理由（その他の内容）

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響 165件 ・家族の介護 7件 ・寒いから 3件 ・用事がない 2件 ・不要不急の外出はしない 2件 ・買い物以外はなるべく外出しない（以下1件） ・疲れやすい。家族を残すのが不安 ・内臓疾患 ・下肢の障害 ・インフルエンザがあるから ・感染予防 ・免疫抑制剤を飲んでいるので、人ごみは避けている ・気分がのらない ・精神的 ・足が不自由 ・不安 ・息切れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くと疲れる ・現在、圧迫骨折のため ・杖が必要 ・足腰悪く手押し車が必要 ・呼吸器の病気(気管支炎) ・足に浮腫があり ・昨年9月に車を廃車した。土日は外出する ・徒歩 ・仕事で忙しいから ・仕事にあわせ日中は家でゆっくり ・友人の引っ越し ・夫の死亡 ・一人で出歩くことはなるべく避けてと言われる ・家の掃除をしている ・一人ではできない ・最近空き巣に入られて、その対策をまだしていない
---	--

移動手段

移動手段をたずねたところ、「自動車（自分で運転）」が 65.7%となっており、次いで「徒歩」が 44.6%、「自転車」が 31.1%の順となっています。

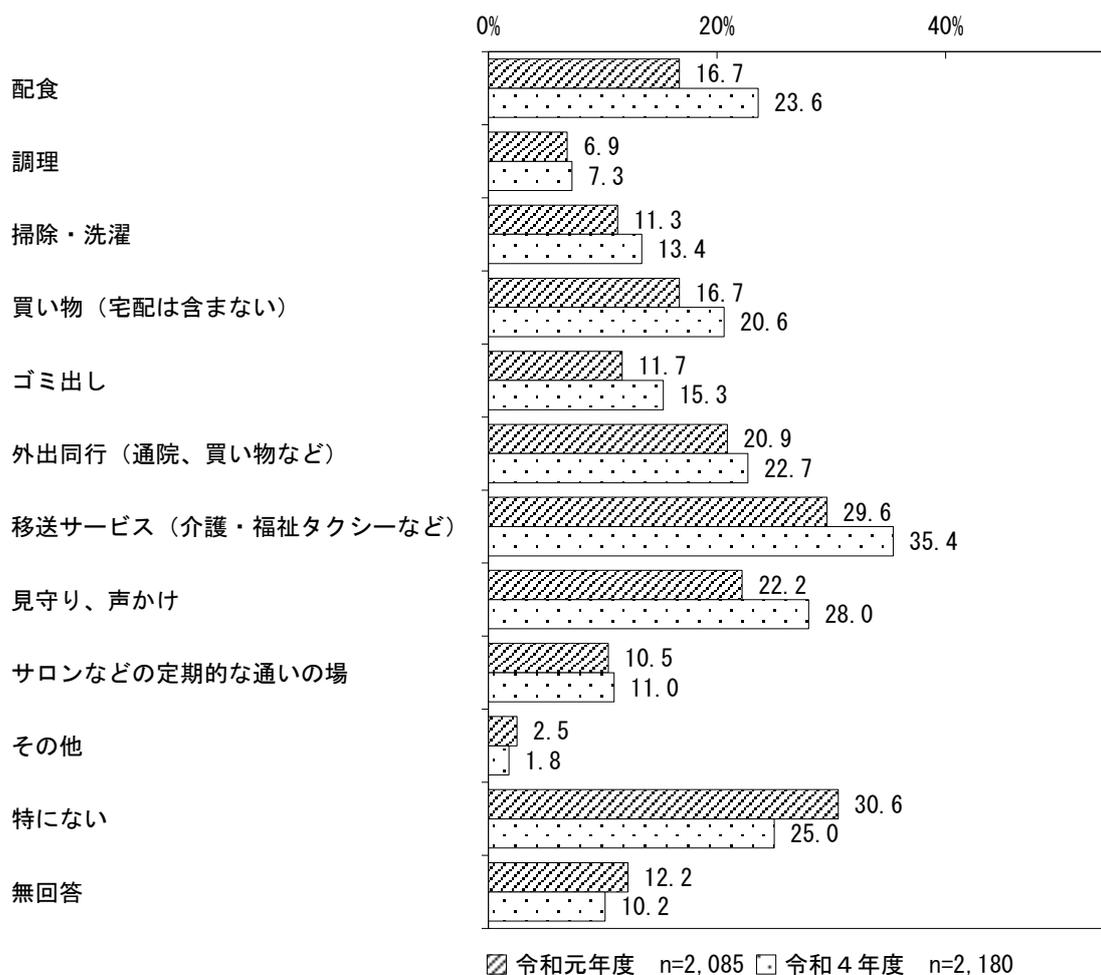
移動手段（複数回答）



今後、地域で暮らしていくために必要なサービス

今後、地域で暮らしていくために必要なサービスをたずねたところ、「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」が 35.4%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」が 28.0%、「配食」が 23.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が 22.7%、「買い物（宅配は含まない）」が 20.6%の順となっています。

今後、地域で暮らしていくために必要なサービス（複数回答）



3 地域課題（高齢者の移動手段）解決のための検討

地域課題 高齢者の移動手段がない	
当該地区 <input checked="" type="checkbox"/> 市全体 <input type="checkbox"/> 佐屋地区 <input type="checkbox"/> 立田地区 <input type="checkbox"/> 八開地区 <input type="checkbox"/> 佐織地区	
問題点 既存の移動手段では不十分である。	
解決案	左記に必要な支援
個人でできること <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットスーパーや生協を利用する ・ 身体面、認知機能面で介護予防に取り組み、いつまでも自身で移動できる状態を保つ ・ シニアカーの活用 ・ 交友関係を増やす（乗り合い） ・ 運転免許証返納後の移動手段を早くから考える 	<ul style="list-style-type: none"> → ネットスーパー利用講習会を行う → 介護予防事業の充実 → 介護保険等、利用対象者の拡大 → 巡回バス活用方法の資料を提供 包括が共に考えることを広報で周知する
地域、事業所の取り組みでできること <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている人への情報提供 ・ 移動支援や買い物代行、オンラインショッピング利用支援ができる担い手を増やす ・ 配達やネットスーパーの利用店舗を増やす ・ 買い物支援バスの財源の確保 ・ サービス事業所が移動支援に参加できる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> → 市民への情報発信 → 講座を開く、広報（LINE）での周知、SNS 活用 → 共同募金のテーマ型募金（1月～3月「高齢者等の移動手段を支援しよう！」）への参加を市民や企業に周知する → 事業所への声掛け、提案
※公的サービス化、制度化の検討が必要なこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的サービスの内容の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> → 愛西市の移動手段をトータルで話し合える場を作る